ホーム＆ライフ
ソリューション

HITACHI
Inspire the Next

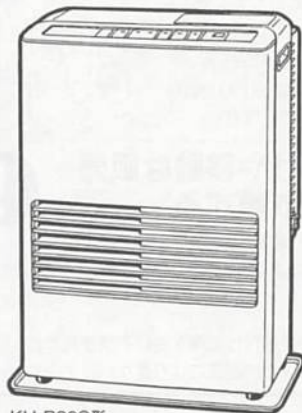
取扱説明書

日立温風クリアヒーター
〈密閉式石油ストーブ〉

KH-B30C形
KH-B30T形

このたびは、日立温風クリアヒーターをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。ご使用の際はこの取扱説明書をよくお読みになり、ご家族全員で正しくご使用ください。
なお、お読みになった後は保証書、ご相談窓口一覧表とともに、大切に保存してください。




KH-B30C形

もくじ

取扱編

ページ

工事編

安全のため必ずお守りください

安全に正しくお使いいただくために、この取扱説明書および製品への表示では、ご使用になる方への危害や財産への損害を未然に防止するために、次のように区分して表示しています。
その内容をよく理解してからご使用ください。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険、又は火災の危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性、又は火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物的損害の発生が想定される内容を示しています。

絵表示について

 この絵表示は「禁止」事項を示しています。

 この絵表示は必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠ 危険（KH-B30C形の場合）　⚠ 警告（KH-B30T形の場合）

ガソリン厳禁



ガソリンなど揮発性の高い油は、絶対に使用しないでください。
●火災の原因になります。

⚠警告

外れ危険



給排気筒（管、ホース）が正しく接続されているか確認してください。



●外れていると、運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

給排気筒トップ閉そく危険



積雪の多いときは、給排気筒トップのまわりが雪でふさがれていないことを確認してください。
ふさがれているときは除雪してください。



●運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

温風吹出口をふさがない



衣類、紙などで温風吹出口や空気取入口をふさがないでください。



●衣類や紙などでふさぐと、火災の原因になります。

据付けや移動は販売店へ依頼する



据付けや移動は、必ずお買い上げの販売店に依頼してください。
●ご自分で据付け工事をされ不備があると、感電や火災の原因になります。

⚠注意

カーテン·可燃物近接禁止



カーテンや燃えやすいものを近づけないでください。
また、給排気筒にも可燃物が触れないようにしてください。



●火災が発生するおそれがあります。

給油時消火



給油は、必ず消火してから行なってください。



●火災のおそれがあります。

油もれ確認



給油口口金は確実にしめてください。
●給油口口金を下にして、油漏れがないことを確かめてください。
●口金を斜めにしめたりすると、簡単に口金が外れて、火災のおそれがあります。
(KH-B30C形)



異常時使用禁止



万一異常を感じたときは、使用しないでください。



●異常燃焼のおそれがあります。
●使用中に異常を感じたり、地震などの緊急の場合は、あわてずに消火してください。

温風に直接あたらない



温風に直接長時間あたらないでください。
特に乳幼児やご自分で温度調節のできない方がお使いのときは、十分に注意してください。



●低温やけどや脱水症状になるおそれがあります。

高温部接触禁止



燃焼中や消火直後は、温風吹出口や給排気筒などの高温部に手など触れないでください。



●やけどのおそれがあります。

分解修理の禁止



故障、破損したら、使用しないでください。



●不完全な修理は危険です。

改造使用の禁止



改造して使用しないでください。
また、本体や給排気筒には床暖房用の熱交換器などを取付けないでください。
●火災や排ガスが室内に漏れる原因となり、危険です。

安全のため必ずお守りください

⚠注意

電源コードを傷めない
電源コードに無理な力を加えたり、物を載せたりしないでください。
電源プラグを抜くときは、コードを持って引き抜かないでください。
●火災や感電の原因になります。

電源プラグは確実に差し込む
電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込んでください。
傷んだプラグやゆるんだコンセントは使用しないでください。
●火災の原因になります。

長期間使用しないときは電源プラグを抜く
長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。
●火災や予想しない事故の原因になります。

電源プラグのお手入れを
ときどきは電源プラグを抜き、ほこりや金属物などを除去してください。
●ほこりがたまると湿気などで絶縁不良になり、火災の原因になります。

給排気筒の周辺に障害物・可燃物・危険物などがないこと
また給排気筒の先端が蜂などの巣やビニール袋などでふさがれていないこと。
●不完全燃焼や火災の原因になります。

高地（標高1000m以上）では使用できません
●不完全燃焼の原因になります。

スプレー缶に注意
スプレー缶を温風の当たるところに放置しないでください。
●熱でスプレー缶の爆発や火災のおそれがあります。

温風吹出口に物を入れない
温風吹出口など開口部に針金等の金属や紙等の燃えやすいものを入れないでください。
●感電や火災の原因になります。

お願い ●熱に弱いじゅうたんやフローリング・床の上で長時間使用すると変色したりそり返ることがあります。熱に強いポリエステル系のマットなどをしいてください。

各部のなまえ

外観図

KH-B30C形正面

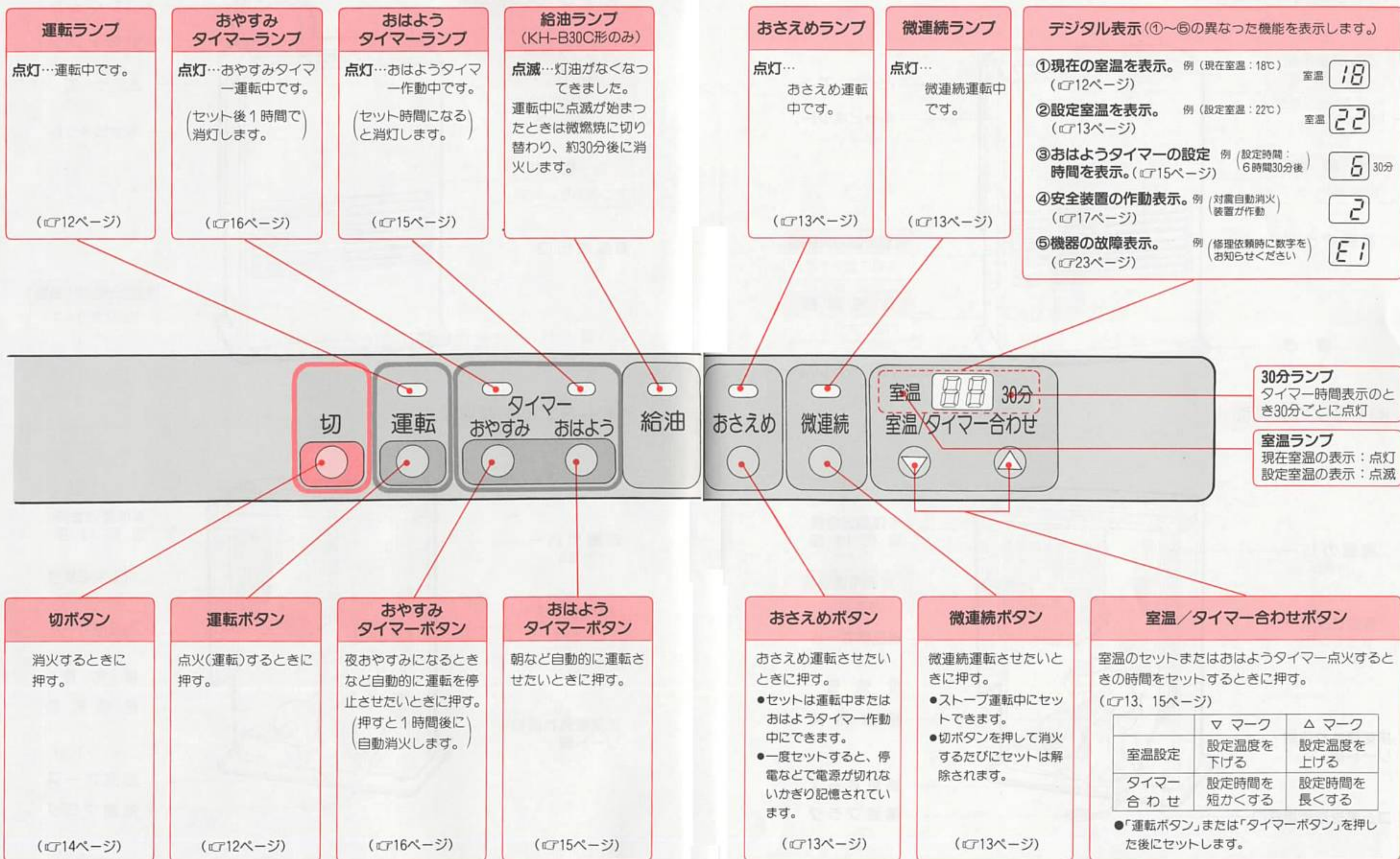
- タンクふた
- 給油タンク
- とって
- キャビネット
- ランプ表示部・操作部（6～7ページをお読みください。）
- 確認窓（炎の確認をします。）
- 温風吹出口
- 対震自動消火装置（内部にあります。）
- 置台

KH-B30C形背面

- 背面カバー（附属品）
- 本体固定金具取付け部
- 対流用送風機（温風ファン）
- 室温センサー（ルームサーモ）
- 送風機ガード
- 排気管
- 給排気筒
- 排気管外れ検知リード線
- 給気ホース
- 電源プラグ

各部のなまえ(つづき)

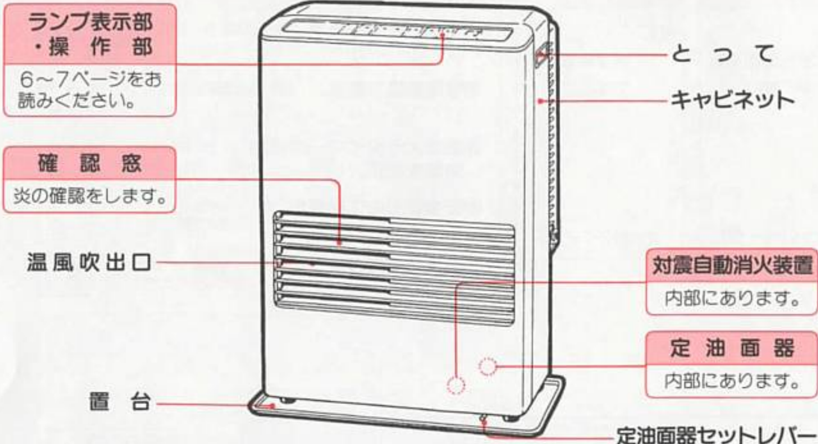
―操作部・ランプ表示部の名称とはたらき―



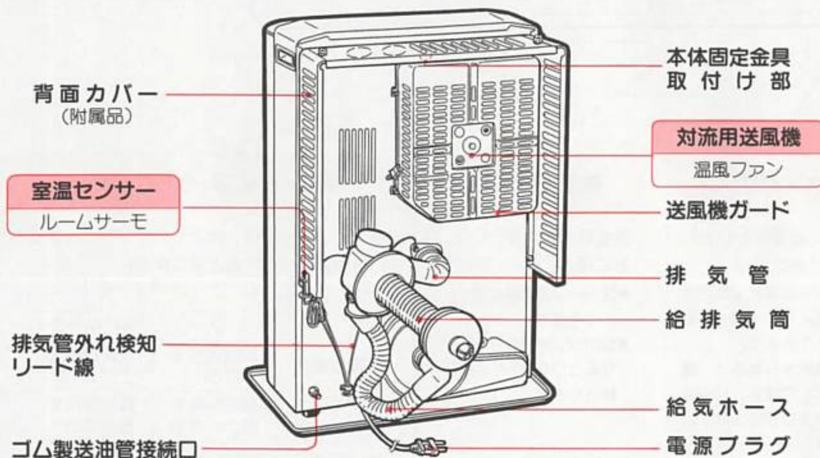
	▽ マーク	△ マーク
室温設定	設定温度を下げる	設定温度を上げる
タイマー合わせ	設定時間を短かくする	設定時間を長くする

各部のなまえ（つづき）

KH-B30T形正面



KH-B30T形背面



使用前の準備

1.燃料

●**燃料は灯油（JIS1号灯油）を必ず使用してください。**

変質灯油、汚れた灯油、水のまじった灯油、ガソリンなどは、絶対に使用しないでください。

●ガソリン、シンナーなど、揮発性の高いものを使用しますと、火災の原因になります。

灯油とガソリンの見分けかた

指先につけて息を吹きかけます。

●火の気のないところでおこなってください。



●**灯油の保管のしかた**

灯油は、必ず火気、雨水、ごみ、高温および直射日光を避けた場所に保管してください。



○ 良い保管	× 悪い保管
直射日光、雨水があたらず、火気のない冷暗所に保管	直射日光、雨水があたるベランダなどでの保管

●**変質灯油・不純灯油とは**

変質灯油

●昨シーズンより持ち越したもの。
●日光のあたる場所で長期間保管したもの。
●高温の場所で長期間保管したもの。
●容器のふたをあけて長期間保管したもの。
●乳白色のポリ容器で保管したもの。

ひどく変質した灯油は、うす黄色味がかったり、すっぱいにおいがします。

不純灯油

●灯油以外の油（ガソリン・軽油・食用油など）がほんの少しでも混入した灯油。
●水やごみが混入した灯油。
●灯油添加剤、燃焼促進剤などを添加した灯油。

●**変質灯油・不純灯油を使用すると**

●点火しない。
●使用中に消火する。
●炎が伸び、スス（煙）が出る、などの原因になります。

●**万一変質灯油・不純灯油を使ったときの処置**

●KH-B30C形の場合は、給油タンク、油受け皿の灯油を抜きとり（18ページ参照）、給油タンクは良質の灯油で内部を2～3回洗ってから給油してください。
●KH-B30T形の場合は、別設油タンク内の灯油を抜きとった後、良質の灯油を給油してください。
●悪い灯油を抜きとっても効果がないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

使用前の準備

2. 給 油　必ず消火してから行なってください。

KH-B30Cの場合

1 給油タンクを取り出し、給油口口金をはずす。

閉　開

2 油量計の中央に油面がくるまで、市販の給油ポンプで給油します。

油面　油量計

●こぼれた灯油はよくふきとってください。

3 給油口口金をしっかりしめ、逆さにして油がもれないことを確かめてから本体にセットします。

給油口口金

●他のストーブの口金を使用しないでください。灯油が漏れます。

KH-B30Tの場合

1 別設油タンクの給油口ふたを外し、油量計の指針が「満」位置になるまで給油します。

給油ポンプ　油量計

●「満」以上は入れないでください。

2 給油口ふたをしっかりとしめ、送油バルブを開きます。

送油バルブ

●給油口ふたは確実にしめてください。
●こぼれた灯油はふきとってください。

3 別設油タンクを空にしないように注意してください。

油量計

油量計が空になりましたら、給油してください。
●別設油タンクが完全に空になってから給油しますと、ゴム製送油管内に空気だまりができ、正常に油が流れなくなります。

3. 運転開始前の準備と確認

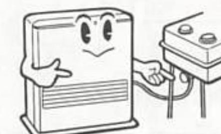
ストーブ周辺の確認

ストーブの周辺や屋外の給排気筒先端部の近く等に、燃えやすいものや危険物が置かれていないか、確かめてください。



油もれの確認

ストーブの下(置台の上)、別設油タンク、ゴム製送油管やその接続部等に、油もれや油だまりがないか確かめてください。



(イラストは別設油タンク使用時)

定油面器のセット(KH-B30T形)

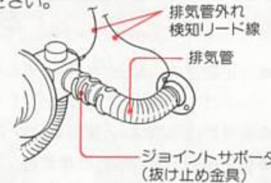
正面右下にある定油面器セットレバーを2～3回押し下げてください。



●この操作を忘れますと、油が流れず、点火しません。

排気管接続部の確認

給排気筒と確実に接続され、ジョイントサポータ(抜け止め金具)で正しく固定されているか、また、排気管外れ検知リード線が確実に接続されているか確認してください。



電源との接続

電源プラグを、コンセント(一般家庭用100V)にしっかり差し込んでください。



⚠注意

電気による事故防止のため次のことに注意してください。
●濡れた手で電源プラグにさわらない。
●電源コードを引っ張ってコンセントより抜かない。
●電源コードの上にストーブや重いものを乗せない。
●電源コードに温風が当たらないようにする。
●電源コードを切断して延長や短縮をしない。
感電・断線・火災等のおそれがあります。

使用方法 通常運転

1.点　火

初めてお使いになるときは、送油経路に灯油が満たされるまで5分ほどお待ちください。

「運転ボタン」を押す。



●約1分後に自動点火します。

●「運転ランプ」が点灯します。
●デジタル表示は「設定室温」を5秒間ほど表示した後「現在室温」を表示します。



お願い

●正しい点火操作を行っても点火せず、デジタル表示に「 *1* 」が表示されているときは、点火ヒータの故障等が考えられます。
切ボタンを押し、お買い上げの販売店に点検を依頼してください。
●点火後、しばらくして自然に消火し、デジタル表示に「 *5* 」が表示されているときは、定油面器に油が流入していないことが考えられます。(KH-B30T形)
切ボタンを押し、定油面器をセットしなおしてください。(11ページ参照)

ちょっとひとこと

●設定室温は、あらかじめ22℃にセットしてあります。
したがって初めて「運転ボタン」を押したとき、デジタル表示は5秒間「22」を表示します。
●燃焼用送風機は、「運転ボタン」を押すと同時に運転します。
●点火後約2分30秒たちますと、「温風ファン」が回り、温風が出ます。
●点火後の電磁ポンプの「コトコト」音は、しばらくすると消えます。

停電や地震があったとき ―安全装置が作動して運転を停止します。―

■停電があったとき (電源プラグがコンセントから抜けたときも同じです。)

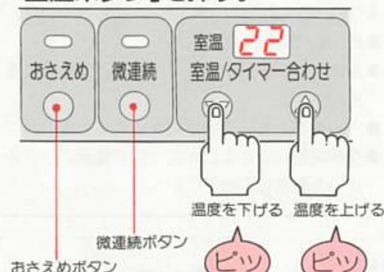
再び通電されても運転しません。再点火はストーブが冷えてから行なってください。
●暖かいうちに点火操作しますと、過熱防止装置が動作することがあります。
●おはようタイマー運転時間、設定室温、おさえめ運転の記憶が解除されます。
それぞれセットしなおしてください。

■地震(強い衝撃)があったとき

デジタル表示に「 *2* 」を表示します。
●切ボタンを押すとデジタル表示は消えます。
●再点火は温風ファンが止まってから、周囲の安全を確認して行なってください。

2.室温の調節

「室温ボタン」を押す。



●このストーブは、あらかじめ設定室温が22℃にセットしてあります。
●運転中(運転ランプが点灯しているとき)「室温ボタン」を押し、「デジタル表示」を見ながらお好みの室温にセットします。
セット範囲は「8℃～32℃」です。
●一度セットすれば記憶しています。
電源プラグを抜いたり、停電した場合は、記憶が解除され22℃に再セットされます。
●「現在室温」は5℃～36℃の範囲が表示されます。

春先など外気温が高いときや小さな部屋でご使用になるとき、暖まりすぎることがあります。このようなときに「おさえめ運転」「微連続運転」をご利用ください。

おさえめ運転のしかた

おさえめボタンを押す。

「設定室温」より約3℃上がると自動消火し、「設定室温」まで下がると自動点火し、室温の上がりすぎをおさえます。
●「消火」の制御が加わるため、点火・消火時に屋外に臭気が出ます。ご近所に迷惑がかかるときは「おさえめ運転」はおやめください。
●解除するときは「おさえめボタン」をもう一度押してください。

微連続運転のしかた

微連続ボタンを押す。

微連続ランプが点灯し、室温やルームサーモの働きに関係なく、最小熱量運転になります。暖かさをおさえた暖房が得られます。
●解除するときは「微連続ボタン」をもう一度押してください。

お願い

●「おさえめ運転」中に「微連続ボタン」を押すと、「微連続運転」となります。
(「おさえめ運転」の記憶は残ります。)
●「微連続運転」中に「おさえめボタン」を押すと、「おさえめ運転」となります。
(「微連続運転」は解除され、記憶も残りません。)
●「切ボタン」を押して消火すると、「微連続運転」は解除されます。

ちょっとひとこと

●現在室温は部屋の温度の目安です。温度計とは一致しないことがあります。
●室温が設定した室温より高いときは、運転ボタンを押しても点火しません(運転ランプは点灯する)。室温が下がれば点火します。(おさえめ運転時)
●室温センサーが温度情報をキャッチし、マイコンによりファジィ制御を行ないます。
点火時の室温が低い(約10℃以下)ときは、お部屋の温度が設定温度に達しても、しばらくは設定室温より少し高めの温度で運転します。
(運転当初は、冷えている壁や床に熱が奪われ、設定した室温より肌寒さを感じるのを防ぐためです。)

3. 消　火

「切ボタン」を押す。



- 「運転ランプ」「デジタル表示」が消灯します。
- 約20秒で消火します。
- 温風ファンはストーブが冷えると自動的に停止します。
- 外出するときは、必ず消火してください。
- 長期間留守にするときは、必ず電源プラグを抜いて電源を切ってください。

お願い　緊急時や長時間使用しないとき以外は、電源プラグをコンセントから抜かないでください。
燃焼中に電源プラグを抜きますと、確認窓がくもったり、異常点火することがあります。



消火後再点火するときの注意

「切ボタン」を押した後、すぐに運転したい場合でも、温風ファンが止まるまでお待ちください。
すぐに「運転ボタン」を押しても、消火操作後約3分間は運転が開始されません。

使用上の注意

⚠注意

高温部接触禁止

給排気筒および給排気筒先端、温風吹出口は高温になりますので、触らないでください。



●やけどのおそれがあります。

別売部品で「給排気筒先端ガード(BC-32G)」、「ルーバーガード(KHG-200)」がありますので、ご利用ください。

■ストーブに腰をかけたり、花びん等水のこぼれやすいものをのせないでください。
感電、故障、火災等の原因になります。

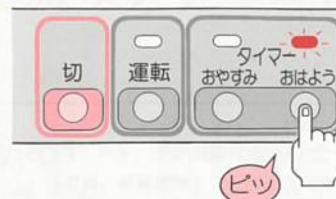
■特殊な使い方は、おやめください。
温室などの人のいない所での使用、部品を外したり、改造しての使用は、事故のもとになります。

■このストーブを使用すると、お部屋が乾燥し、健康上および家屋や家具等に悪い影響を与えることがあります。
乾燥する場合は、加湿器をお求めのうえ、併用してください。

1. おはようタイマー運転

- 室温が6℃より低い場合はセットした時間の90分前より運転します。室温が6℃以上の場合はファジィ制御によりセットした時間の10～60分前（お部屋の温度が低いほど早く）に運転を始め、効率よく暖めます。
- おはようタイマーは30分～24時間まで、30分刻みでセットできます。

1 「おはようタイマーボタン」を押す。



「おはようタイマーランプ」が点灯し、「デジタル表示」に記憶されているタイマー時間を表示します。
- おはようタイマー待ち時間は、あらかじめ8時間にセットしてあります。



2 「タイマー合わせボタン」を押し、現在の時刻から暖めておきたい時刻までの時間を合わせる。



- 「▽」を押すと時間が短かくなります。
「△」を押すと時間が長くなります。
押すごとに30分づつ変り、押し続けるとゆっくり連続的に変わります。
- 時間を合わせたときからタイマーが動きはじめます。

3 セット時刻より前に点火し、運転します。



「運転ランプ」が点灯し、「デジタル表示」は室温表示になります。



「おはようタイマーランプ」は、セット時間になると消灯します。

お願い
- 「タイマー合わせボタン」でセットした時間は、セットを変えるまで記憶されています。同じ時間で運転するときは、「タイマーボタン」を押すだけで、運転します。
- すぐ運転したいときは「運転ボタン」を、停止するときは、「切ボタン」を押してください。
- 運転中に「おはようタイマーボタン」を押すと一度消火し、「デジタル表示」された時間のおはようタイマー運転になります。
- セット時間を変更したい場合は、「タイマー合わせボタン」で合わせなおしてください。
- 設定室温を変更したい場合は、おはようタイマー運転セットの前に行なってください。

タイマー運転（つづき）

2. おやすみタイマー運転

おやすみタイマー運転は、おやすみ前など、ストーブを1時間だけ運転したいときに使います。

「おやすみタイマーボタン」を押す。



「運転ランプ」「おやすみタイマーランプ」が点灯し、通常の点火がおこなわれます。
●1時間運転した後、自動消火します。

お願い
- ●運転中に「おやすみタイマーボタン」を押すと、1時間後に自動消火します。
- ●途中で消火したいときは「切ボタン」を、運転を続けたいときは「運転ボタン」を押してください。
- ●「おやすみタイマーボタン」を再度押すと、その時点からさらに1時間運転します。

3. おやすみ・おはよう同時運転

1 「おやすみタイマーボタン」を押す。

「おやすみタイマーランプ」「運転ランプ」が点灯し、通常の運転が始まります。
●運転中でもこのセットは可能です。



2 「おはようタイマーボタン」を押す。

「おはようタイマーランプ」も点灯します。



3 1時間運転した後、自動消火します。

「おはようタイマーランプ」のみ点灯しています。



4 セット時刻より前に自動的に運転が始まり、セット時刻にはお部屋が暖まっています。

「運転ランプ」が点灯し、「おはようタイマーランプ」はセット時刻になると消えます。



日常の点検・手入れ

- **●日常の点検・手入れは必ず行ってください。**
  なお、化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書にしたがってください。
- **●点検・手入れは必ず消火して、ストーブが冷えてから行ってください。**
- **●バーナ部、電気部品、対震自動消火装置などは、絶対に分解しないでください。**
  不完全な修理は危険です。点検・修理等には高度な技術を要しますので、必ずお買い上げの販売店にご依頼ください。

点検箇所	点検時期	点検内容	処置
本体の周囲	毎日	燃えやすい物が置いてないか。 カーテンが近づいていないか。	●燃えやすい物は片づける。 ●カーテンが近づかないようにする。
置台	毎日	灯油が漏れてたまっていたり、 灯油がにじんでいないか。	●こぼれている灯油はふきとる。 ●灯油がにじんでいたり、漏れているときは使用をやめ、お買い上げの販売店に修理を依頼する。
送風機ガード	1週間に1回	ほこりが付着していないか。	●背面カバー(上)を外し、掃除機などでほこりをとる。
器具表面 温風吹出口	1週間に1回	ほこりなどが付着していないか。 異物などがはさまっていないか	●掃除機などでほこりをとる。 ●異物は割ばしなどでとる。
オイルフィルター (KH-B30C形)	給油のとき	油受け皿内にあるオイルフィルターが、ごみで目詰まりしていないか。	●きれいな灯油ですすぎ洗いする。 オイルフィルター 油受け皿
別設油タンク (KH-B30T形)	給油のとき	水(ドレン)が溜っていないか。	●水が溜っているときは、別設油タンクの取扱説明書に従い水を抜く。
ゴム製送油管 (KH-B30T形)	給油のとき	ひび割れや変形はないか。 接続部のゆるみはないか。	●お買い上げの販売店に依頼して、交換してもらう。
給油口口金 (KH-B30C形)	1か月に1回	通気口がごみなどでふさがれていないか。	●針などで取り除く。
給排気筒	1か月に1回	● つまりはないか。 ● 給排気筒先端の周囲に可燃物はないか。 ● 給排気筒先端が袋等で覆われていないか。 ● 給気、排気の接続部に外れやゆるみはないか。	●異物やごみなどは取り除く。 ●周囲の可燃物は取り除く。 ●袋等は取り除く。 ●外れやゆるみのあるときは、使用をやめ、お買い上げの販売店に修理を依頼する。

お願い
熱交換器、バーナ内の掃除、バーナ内に油が溜ったときの油抜き、定油面器のストレーナのお手入れ、点火ヒータの点検・交換等は、分解・手入れに高度の技術を要しますので、必ずお買い上げの販売店にご依頼ください。

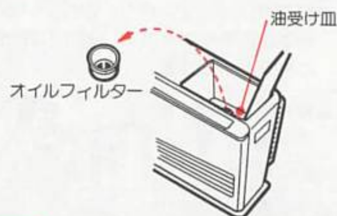
日常の点検・手入れ(つづき)

油受け皿の油抜き・水抜き(KH-B30C形)

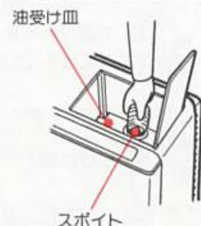
油受け皿に水がたまると、給油タンクに灯油が入っていても点火しません。
次の要領で油受け皿の水抜きを行なってください。

●変質灯油、不純灯油を誤って使用してしまったときは、油受け皿の油抜き、水抜きを行なった後、新しい良質の灯油で清掃してください。

1 給油タンクを取り出し、油受け皿からオイルフィルターを外します。



2 付属のスポイトで水(灯油)を抜きとります。



3 油受け皿内に付着している水を、布でふきとり、もとどおりにオイルフィルター、給油タンクを取り付けます。



別設油タンク使用のKH-B30T形の場合

●油タンク内に水(ドレンという)が溜っていないか点検し、水が溜っているときは、油タンクの取扱説明書を参照して水抜きをしてください。

●本体と油タンクを結ぶ「ゴム製送油管」にひび割れがないか点検し、異常があればお買い上げの販売店に交換を依頼してください。
なおゴム製送油管は経年劣化します。
3年に1回は新しいものと交換してください。

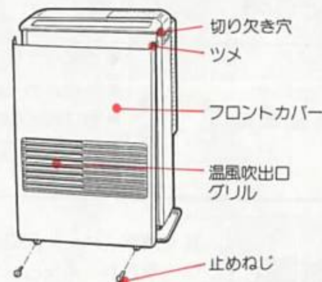
異物が入ったときの分解方法

ストーブの内部に異物などが入りますと、故障や火災の原因となります。

特にお子様が温風吹出口グリルより紙やプラスチックなどを入れることがありますので、じゅう分注意してください。
もし異物が入ったときは、消火して本体がよく冷えてから電源プラグを抜き、フロントカバーを外して取り除いてください。

●下部の止めねじ2本を外し、下部へ引くようにすると取り外せます。

●取り付けは、上部のツメ(左右各1)を本体の切り欠き穴にはめ、押し上げるようにして下部を止めねじ2本で固定します。



給排気筒の点検

●ときどき給排気筒および排気管の接続箇所が、正しく、しっかりと接続されているか、つまりがないか、確認してください。

接続箇所が外れていますと、排ガスが漏れて非常に危険です。
もし不具合がありましたら、使用を中止し、お買い上げの販売店に修理を依頼してください。

■チェックポイント
●排気管おさえはついていますか。
●ジョイントサポータ(抜け止め金具)はついていますか。

●接続部が外れている
●におうようになった。
●まわりがすすけてきた。





●ストーブを都合により動かされた場合(畳替え、ジュータンのはり替え、収納および再据付け時等)には必ずお買い上げの販売店に点検および再据付けをご用命ください。

定期点検

長期間ご使用になりますと、万一の事故を未然に防止するためと、快適にご使用いただくために機器の点検が必要です。
1シーズンに1回程度シーズンの終了後などにお買い上げの販売店、または修理資格者〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL. 03-3499-2928)で行なう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店などに点検依頼されることをおすすめします。
点検・修理についての費用など詳しいことは販売店にご相談ください。

部品交換のしかた

長期間の使用による部品の劣化などで部品交換が必要なときは、お買い上げの販売店・または最寄りの「日立家電品ご相談窓口」にお問い合わせいただき、〔(財)日本石油燃焼機器保守協会(TEL. 03-3499-2928)で行なう技術管理講習会修了者(石油機器技術管理士)など〕のいる販売店などに依頼されることをおすすめします。

●バーナ部、電気部品、対震自動消火装置などは、絶対に分解しないでください。

●交換部品(消耗部品)は、必ず日立温風クリアヒーター用の純正部品をご使用ください。

故障・異常の見分け方と処置方法

故障・異常が生じたとき安全装置が作動して自動消火し、デジタル表示でお知らせします。
切ボタンを押し（表示は消えます）、処置をしてください。原因がわからないときや、処置をして点火操作をしても運転しないときは、お買い上げの販売店にご相談ください。

表示〔安全装置〕	原　因	処　置
1 を表示 〔燃焼制御装置の作動〕 〔点火安全装置の作動〕	点火不具合 ●初めての使用、シーズン始めなどで灯油が流れていない	●しばらく待ってから再度点火操作する
	●不良灯油、水の混入した灯油を使用した	●油抜きをする （18ページ参照）
5 を表示 〔燃焼制御装置の作動〕	燃焼中の失火（KH-B30T形） ●灯油が供給されていない	●定油面器をセットする ●油切れのときは給油する ●再度点火操作する
2 を表示 〔過熱防止装置の作動〕	●送風機ガードがカーテンなどでふさがれたとき	●本体を冷やし、カーテンなどを取り除く
	●送風機ガードにほこりがたまったとき	●掃除をする
	●壁面との距離が少ないとき	●指定寸法以上にする
	●対流用送風機の故障	●修理を依頼する
	●ストーブの前方に障害物がある	●障害物を取り除く
2 を表示 〔対震自動消火装置の作動〕	●地震（震度5以上）のとき ●強い振動や衝撃を与えたとき	●本体と周囲に異常がないことを確かめる
全ランプ消灯 〔停電安全装置の作動〕	●停電したとき ●電源プラグが抜けたとき	●再通電後、本体が冷えるまで待って運転ボタンを押す ●タイマーなどを設定しなおす
E0 ･･･ E8 が表示され、ブザーが鳴る	●機器が故障したとき	●修理を依頼する （数値も知らせる）

ぐあいの悪いときは、つぎの表を参考にして点検・処置してください。
それでもおわかりにならないことがありましたら、お買い上げの販売店にご相談ください。

現象＼原因	油が出ない	点火しない	炎が大きくならない	スス（煙）が出る	燃焼音がはげしい	炎が安定しない	点火後しばらくして消火した	処置方法	参照ページ
定油面器がセットされていない（KH-B30T形）	●	●					●	定油面器セットレバーを2〜3回押し下げる	11
給排気筒の接続が不完全、排気管または給気ホースが外れている		●	●	●	●	●		販売店に正しく設置または取り付けてもらう	19
別設油タンクの据付け高さが低い（KH-B30T形）	●	●				●	●	ストーブ本体と同じ高さの床に置く	31
ゴム製送油管に空気が入っている（KH-B30T形）	●	●				●	●	送油管を振って空気を抜く	－
オイルフィルター、給油口口金のごみ等による詰まり（KH-B30C形）	●							掃除する	17

保管（長期間使用しない場合）

シーズンオフには、つぎのようなお手入れをして、設置したままで保管してください。

1 保管前に

特別な理由のない限り、ストーブを取外しておしまいにならないでください。
やむをえず取外した場合は、来シーズンは必ずお買い上げの販売店に依頼して、給排気筒などの接続部を傷めないよう、確実な据付けを行ってください。

2 ストーブの清掃

- ストーブ外側のよごれやほこり等を、きれいに掃除してください。
- ストーブ内部の清掃は、必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

3 油の除去

給油タンクおよび別設油タンクはからにして、内部にごみや水（ドレン）が残らないようきれいな灯油でよく洗い、乾燥させてください。
ごみや水が入ったまま保管しますと、サビの発生や穴あきの原因となります。

4 保　管

- 電源プラグをコンセントから抜いてください。
- ストーブには、ほこりなどが入らないようなカバーをかけて保管してください。
  なお、別売部品に本体カバーがありますので、ご利用ください。

故障かな？と思ったら

次のような現象の場合は異常ではありません。
サービスをお申し付けになる前に、もう一度確認してください。

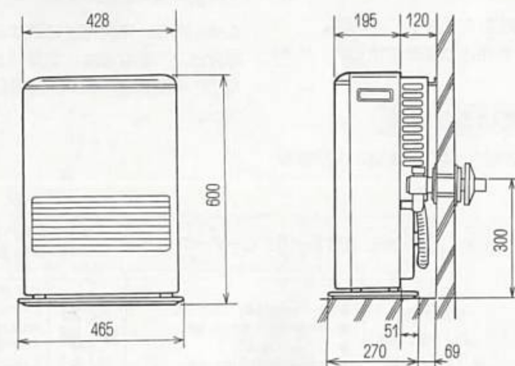
現象	説明
停電等により電源が一時切れ、再通電しても運転が再開しない（気付かないような瞬時の停電でも運転は再開しない）	自動的に運転は再開しない構造になっています。ストーブが冷えていることを確認してから運転してください。
おはようタイマー運転をしたがセットした時間になっても部屋が暖まらない	●運転ボタンを押して、運転するか確かめてください。 ●途中で停電があり、おはようタイマーのセットが解除されたためです。点火するときは運転ボタンを押してください。
点火時や消火時にキシミ音がする	バーナ部、熱交換器の膨張・収縮する音です。心配ありません。
初めて点火したとき、においが出る	塗料などの焼けるにおいです。においがなくなるまで「強燃焼」で約30分ほど、窓をあけて運転してください。
運転中、ストーブが消火した（運転ランプは点灯している）	ルームサーモがはたらいて消火したものです。室温が下がれば再び点火します。
室温が常に一定でない	室温調節は燃焼の「強・弱・微・消火」によっておこないますので、室温は多少上下動します。また室温センサー部の温度とお部屋中央部の温度にも違いがあります。
燃焼中にストーブが消火し、再点火操作しても火がつかない（KH-B30T形）	別設油タンクが空になったためです。給油し、再点火してください。
使用中や消火後でも、ときどき「ボコボコ」という音がする（KH-B30C形）	使用中は、給油タンクから油が出るときに空気が入る音です。消火後でも音がするときは、室温の変化によって給油タンク内に空気が入る音です。故障ではありません。

仕様

形式の呼び		KH-B30C	KH-B30T
種類		ポット式・強制対流形・強制給排気形	
点火方式		電気点火	
使用燃料		灯油（JIS1号灯油）	
暖房出力	最大	3.00kW・10,800kJ/h	
	最小	1.28kW・4,600kJ/h	
発熱量 熱効率	最大	12,480kJ/h・熱効率：86.5%	
	最小	5,450kJ/h・熱効率：84.4%	
燃料消費量	最大	0.337L/h	
	最小	0.147L/h	
油タンク容量		4.3L	―
外形寸法		高さ 600mm×幅 465mm×奥行 270mm（置台を含む）	
質量（重量）		16kg	15kg
電源電圧及び周波数		100V 50/60Hz	
定格消費電力		最大：99/95W（点火時） 燃焼時：50/43W・(50/60Hz)	
給排気筒の型式の呼び		KT-3S	
給排気筒の呼び径		D40	
給排気筒の壁貫通部の孔径		65〜70mm	
排気温度		260℃以下	
電流ヒューズ		3A	
安全装置		●対震自動消火装置 ●過熱防止装置 ●点火安全装置 ●停電安全装置 ●燃焼制御装置	
附属品		置台・外フランジ・フランジパッキン・本体固定金具・絶縁シール・エアーダンパー・背面カバー(一式)・ねじ(20mm×4・8mm×2)・薄壁用ねじキャップ・スポイト(KH-B30C形)・ゴム製送油管（KH-B30T形）(締付金具2個付)	

●給排気筒接続部Oリング：JIS B 2401 4種D P39

外形寸法図 （単位：mm）



故障かな?と思ったら／仕様

保証とアフターサービス（必ずお読みください）

保　証　書（別添）

保証書は必ず「お買上げ日・販売店名」等の記入をお確かめのうえ販売店から受け取っていただき、内容をよくお読みの後、大切に保存してください。

●保証期間は、お買い上げの日から１年です。

修理を依頼されるときは 出張修理

修理を依頼される前に「故障・異常の見分け方と処置方法」（20ページ）および「故障かな？と思ったら」（22ページ）を調べていただき、なお異常のあるときは、故障や事故防止のため、ご使用を中止し、コンセントから電源プラグを抜いて必ずお買い上げの販売店にご連絡ください。

連絡していただきたい内容

品　　　名	日立温風クリアヒーター
形式の呼び	KH-B30CまたはKH-B30T
お買上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に
ご　住　所	付近の目印等も合わせて
お　名　前	
電話番号	
訪問ご希望日	

※形式の呼びは、本体側面の銘板に表示されています。

保証期間中は

修理に際しましては保証書をご提示ください。
保証書の規定に従って販売店が修理させていただきます。

保証期間がすぎているときは

修理すれば使用できる場合には、ご希望により修理させていただきます。

補修用性能部品の保有期間

密閉式石油ストーブの補修用性能部品の保有期間は、製造打切り後７年です。
補修用性能部品とは、その商品の機能を維持するために必要な部品です。

修理料金のしくみ

修理料金＝技術料＋部品代＋出張料です。

技術料	故障した製品を正常に修復するための料金です。技術者の人件費・技術教育費・測定機器等設備費・一般管理費等が含まれています。
部品代	修理に使用した部品代金です。その他修理に付帯する部材等を含む場合もあります。
出張料	製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。別途駐車料金をいただく場合もあります。

転居されるときは

ご転居によりお買い上げの販売店のアフターサービスが受けられない場合は、前もって販売店にご相談ください。ご転居先での日立の家電品取扱店を紹介させていただきます。
なお、この製品は再据付工事が必要となりますので、転居先の販売店にご相談・ご用命ください。

ご不明な点や修理に関するご相談は

点検、修理、再据付けに関する相談、並びにその費用などご不明な点は、お買い上げの販売店または別紙「ご相談窓口一覧表」の窓口にお問い合わせください。

愛情点検



長年ご使用の石油温風クリアヒーターの点検を！

●石油温風クリアヒーターの補修用性能部品の保有期間は、製造打切後7年です。

ご使用の際このようなことはありませんか？	●ときどき点火しないことがある。 ●ときどき消火することがある。 ●におうようになった。 ●その他の異常・故障がある。	▶	お願い	故障や事故防止のため、消火してコンセントから電源プラグを抜き販売店にご連絡ください。 点検・修理についての費用など詳しいことは販売店にご相談ください。

据付け

■据付け場所の選定および標準据付け例

●ストーブの据付けについては、火災予防条例、電気設備に関する技術基準、石油燃焼機器の設置基準等による規制があります。
工事編の「安全のため必ずお守りください」をお読みになり、販売店または据付業者とよく相談してください。

●標準据付け例については27ページを参照してください。

■据付け後の確認

据付けが終わりましたら、もう一度工事編の「安全のため必ずお守りください」をお読みになり、工事編に記載されているとおり据付けられているか確認してください。

■試運転

試運転は販売店または据付け業者とご一緒に必ず行なってください。

1 運転準備（詳しくは9～11ページを参照してください。）

❶給油タンクまたは別設油タンクに灯油（JIS1号灯油）を給油してください。
❷電源プラグがコンセントに差し込まれているか確認してください。
❸右下にある定油面器セットレバーを2～3回押し下げてください。（KH-B30T形）
❹ストーブの下部（置台の上）などに、油もれや油だまりがないか確かめてください。
●別設油タンクの送油バルブを開き、一度ゴム製送油管を振って空気抜きをしておいてください。（ゴム製送油管内に空気だまりがあると油が流れません。）（KH-B30T形）

2 運　転

❶運転操作は、12～16ページを参照して行なってください。
❷初めてお使いになるときは、送油経路に灯油が満たされるまで5分ほど待ってから点火操作をしてください。
❸試運転時、塗料の焼けるにおいがすることがあります。
30分ほど窓をあけて運転してください。
❹点火後、約2分30秒たちますと、自動的に対流用送風機が回って温風が出ます。
❺設定室温を変え、燃焼が変わるかを確かめてください。

3 消　火

切ボタンを押して消火操作後は約20秒で火が消え、しばらくして温風も止まることを確かめてください。

〔以上で試運転は完了です〕

工事説明書（工 事 編 ）

据付け工事の前に、この工事説明書をよくお読みのうえ正しく据付けてください。
なおこの説明書は必ず保存してください。

安全のため必ずお守りください

正しく、安全に据付けていただくために、この説明書では次のように区分して表示しています。その内容をよく理解したうえで据付けてください。

⚠警告	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が死亡・重傷を負う可能性、または火災の可能性が想定される内容を示しています。
⚠注意	この表示を無視して作業を誤った場合に、作業者が、またはその作業後の不具合によって使用者が傷害を負う可能性や物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示について

 この絵表示は「禁止」事項を示しています。

 この絵表示は必ず実行していただく「強制」内容です。

⚠警告

据付けや移動は販売店へ依頼すること

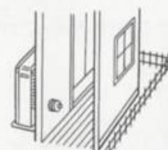
●ご自分で据付けをされ不備があると、感電や火災の原因になります。

法令の基準を守る

火災予防条例、電気設備に関する技術基準、電気工事は指定の工事店に依頼する、など法令の基準を守る。

屋内給排気禁止

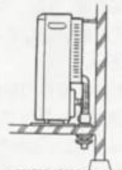
必ず屋外に排気してください。



●排ガスが室内に充満して危険です。

床下給排気禁止

必ず屋外に排気してください。



●排ガスが室内に漏れて危険です。

外れ危険

排気管・給気ホースと給排気筒は確実に接続し、しっかりと固定してください。

●風・振動・衝撃などで外れたりすると、運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

給排気筒トップ閉そく危険

積雪が多いときに、給排気筒トップの周りが雪でふさがれない場所に設置してください。
また、板などによる「雪囲い」は給排気の妨げになるのでおやめください。

●運転中に排ガスが室内に漏れて危険です。

安全のため必ずお守りください

⚠注意

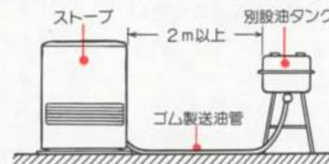
次の場所には据付けない

○水平でない場所、不安定な場所。
○不安定な物をのせた棚などの下。
○可燃性ガスの発生する場所またはたまる場所。
○付近に燃えやすいものがある場所。
○階段、避難口などの付近で、避難の支障となる場所。
○防火対策をしていないマントルピース。
○温室、飼育室など、人のいない場所。

●火災や予想しない事故の原因になります。

油タンクとの距離を離す（KH-B30T形）

油タンクは機器より2m以上離して据付けるか、防火上有効な遮へいを設けてください。



●据置式の油タンクは、不燃材の床上に据付けてください。

給排気筒は本体に取付けてあるものか、または指定のものを使用する

●それ以外のものを使用すると、不完全燃焼、機器の過熱、火災等の危険があります。

ゴム製送油管の屋外使用禁止（KH-B30T形）

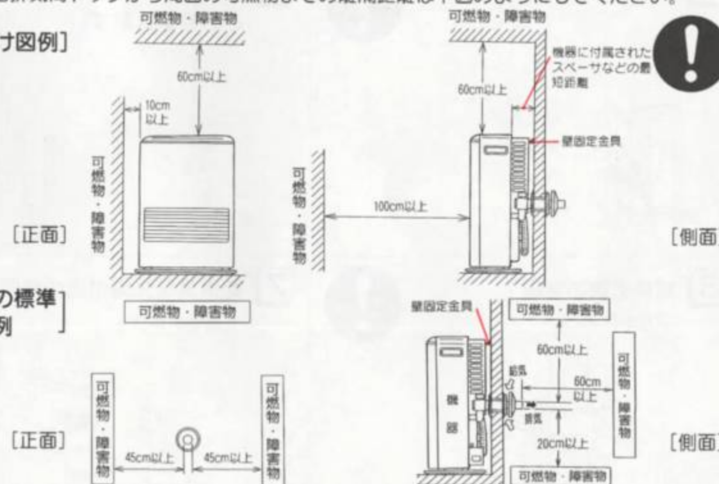
ゴム製送油管は屋外で使用しないでください。

●ひび割れを生じて油漏れの原因になります。

可燃物との距離は離す

機器本体、給排気筒トップから周囲の可燃物までの離隔距離は下図のようにしてください。

［標準据付け図例］



［給排気筒の標準据付け図例］



●機器に付属された置台の上に据付けること。

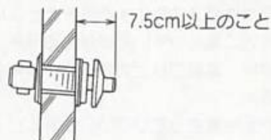
安全のため必ずお守りください

⚠注意

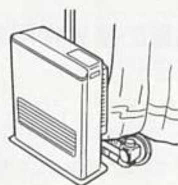
給排気筒の点検

取付けが終わりましたら、もう一度点検してください。次のような取付けは、危険であったり、不完全燃焼を起こすおそれがありますので、必ず修正してください。

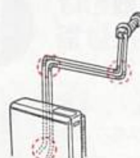
4 トップ（給排気筒先端）突出寸法



1 カーテンと給排気筒の接触

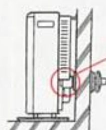


5 曲がり、延長給排気筒（管）の制限

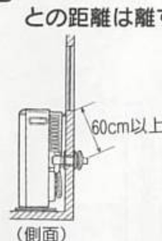


●曲がり3ヶ所以下（本体出口の曲がりを含む。）
この例図は3曲がり
●延長3m以下

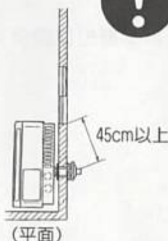
2 接続部のゆるみ点検



6 給排気筒トップと開口部との距離は離す



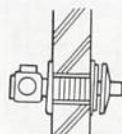
（側面）



（平面）

3 給排気筒の傾斜

下り勾配のこと



下り勾配（または水平）

7 給排気筒先端付近の危険物

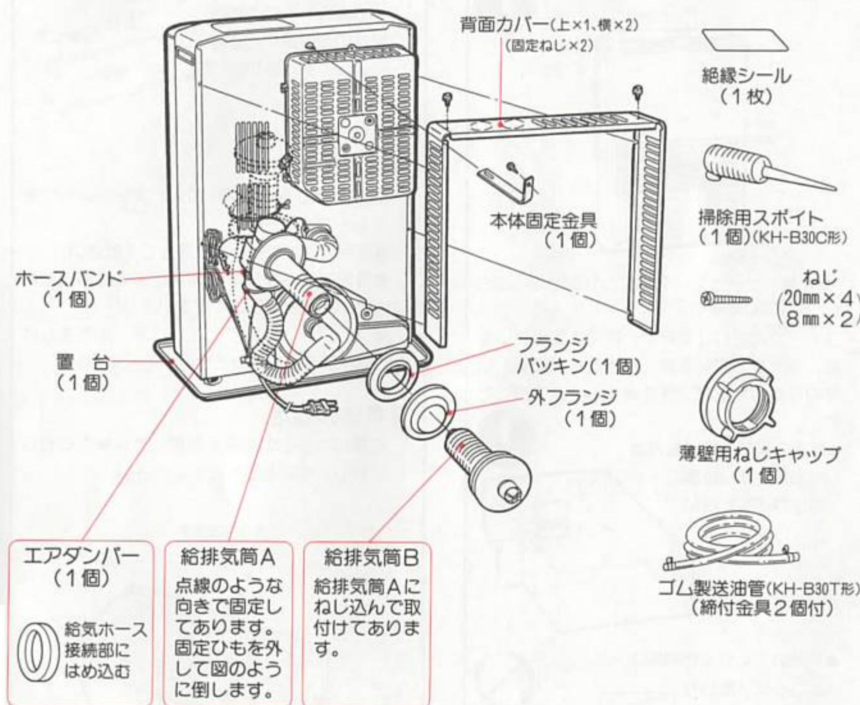
危険物近接禁止



開こん

開こんの際の注意と附属部品の確認

●ダンボール箱からストーブを取り出しましたら、パッキン、テープ等の包装材を取り除いてください。
●上部に入っているダンボールのパッキン（上シート）は、据付けるときに使用する型紙になっていますので、捨てないでおいてください。
●附属部品の確認を行なってください。



エアダンパー（1個）
給気ホース接続部にはめ込む

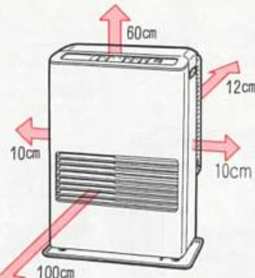
給排気筒A
点線のような向きで固定してあります。固定ひもを外して図のように倒します。

給排気筒B
給排気筒Aにねじ込んで取付けてあります。

据付け

据付け場所の選定

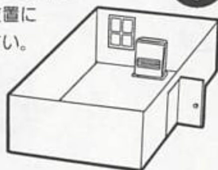
1 ストーブの周囲は、下図に示すような寸法内に障害物、可燃物等のない場所をお選びください。



●点検・サービス・電源コンセント等の都合も併せて考慮してください。

2 ストーブの据付け場所は、暖房効果の良い場所、丈夫で水平な床面、給排気筒を屋外に出すのに適した位置、等を考慮してお選びください。

●暖房効果の点で、お部屋の冷えやすい位置に据付けてください。



●ドアの近くやすき間風の入るところには据付けないでください。



3 屋外に出した給排気筒の周囲に、可燃物や障害物があってはいけません。
給排気筒先端の排ガス温度は約230℃になります。また、給排気筒からは多少臭気が出ますので、隣近所の迷惑にならないような場所を選んでください。

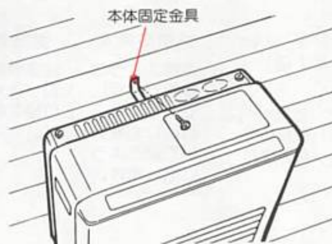
据付け方法

1 置台の取付け
ストーブ据付け位置に置台を置き、その上にストーブを設置してください。
その際ストーブの脚が、置台の脚位置にくるようにしてください。



2 電源の接続
電源プラグを家庭用100Vのコンセントに差し込んでください。
●専用のコンセントを使用してください。
●電源コードが給排気筒などの高温部に触れないよう注意してください。
●プラグはしっかりと差し込み、抜き差しは必ずプラグを持って行なってください。

3 本体の固定
付属の本体固定金具を利用して、壁面にねじ止めして本体を固定してください。



●壁への固定のしかたについて詳しくは35ページをご覧ください。

（本体固定金具が壁に固定できない場所では このストーブは使用を禁じられています。）

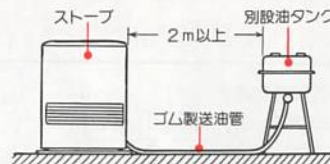
4 別設油タンクの組立てと据付け（KH-B30T形）

❶別設油タンクは「日立油タンクOT-43、OT-63、OT-93N」(別売)をご利用ください。

❷組立ては、別設油タンクの「取扱説明書」にしたがってください。

❸据付けは、不燃材料の上に据付け、簡単に動いたり、倒れたりすることのないようにし、畳、じゅうたんなどの上には据付けないでください。

❹ストーブとの間に防火上有効な壁等がない場合は、２m以上離してください。



❺ストーブ据付け床面と同じ高さの床面に据付けてください。

お願い

●別設油タンクを使用する場合は、ストーブ据付け床面より油タンク下面までが40cm以上で、上面までが2.6m以下になるようにしてください。

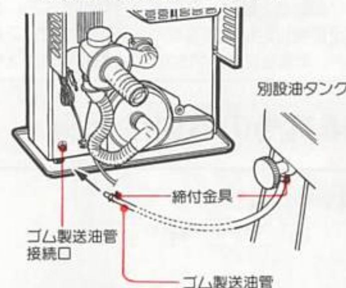
●別設油タンクの設置位置が低いと油がストーブに流れず、また高すぎると定油面器内の安全装置が作動して油が流れなくなり、使用できなくなります。

●別設油タンクの据付けについて各地の火災予防条例でこれと異る定めがある場合は、それに従ってください。

5 ゴム製送油管の取付け（KH-B30T形）

❶ゴム製送油管は、必ずストーブに附属のものまたは「日立送油ホースOTH-90L」を用いてください。

❷ストーブの背面下部にあるゴム製送油管接続口にゴム製送油管を接続してください。
ストーブ側および別設油タンク側とも、ゴム製送油管接続口にしっかりと差し込み、締付金具で固定してください。



●ゴム製送油管が途中で盛り上がったり、もつれたりしていますと、その部分に空気だまりを生じて油が流れなくなりますので注意してください。

●ゴム製送油管は、直射日光の当たる場所(屋外)での使用は禁じられております。
屋外配管するときや、埋設部分があるときは、鋼管または銅管配管工事を販売店に依頼してください。
［銅管を使用する場合は「日立送油銅管OTD-91(外径8mm、肉厚0.8mm)」(別売)をご利用ください。］

接続が終りましたら別設油タンクに給油して送油バルブを開き、定油面器セットレバーを２～３回押し下げて30分程待ち、接続部に灯油のにじみがないか確かめてください。

給排気筒の取付け

給排気筒の取付け場所の選定

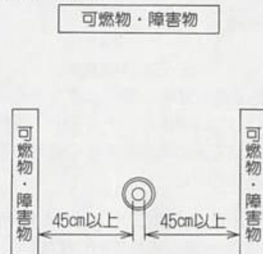
⚠注意

- 給排気筒先端は外気に面している壁に取付けてください。
- 雪で給排気筒先端が埋るような場所や風の吹きだまりになるような場所には取付けないでください。
- 大きな樹木等の障害物のない場所へ取付けてください。
- 給排気筒先端からは熱い排ガスが出ます。
  プロパンガスボンベや、石油かん等の危険物のない場所に取付けてください。
  また、**前方の可燃物・障害物との距離は60cm以上確保してください。**
- 風が長時間給排気筒の前方から吹き付ける場所では、外壁が汚れることがありますので注意してください。
- 高い場所など屋外から作業できないところには取付できません。
- 集合煙突に給排気筒を取付けることは絶対におやめください。不完全燃焼します。
- 点火、消火時に臭いが出ますので隣り近所の迷惑にならない場所に給排気筒を取付けてください。



給排気筒の取付け図例

〔給排気筒の正面〕



〔給排気筒の側面〕



- 給排気筒先端の給排気部に、袋等はかぶせないでください。

給排気筒を取付ける壁の壁厚について

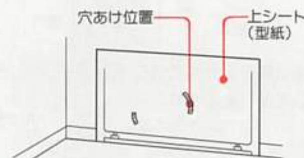
取付可能な壁厚は1.5～22cmの範囲です。

- 壁厚が1.5～12.5cmまでの壁に取付ける場合は、同梱の薄壁用ねじキャップを使用してください。(35ページ参照)
- 厚さが22cmを越える壁に取付ける場合は、販売店または据付け業者とよくご相談のうえ別売の応用据付け部品を使用して取付けてください。
  標準の給排気筒では、給排気筒A(室内部)と給排気筒B(室外部)との接続が不十分となり、異常燃焼を起こしたり排ガスが漏れたりして危険です。

給排気筒の取付け工事方法(標準据付けの場合)

1 壁穴の位置を決める

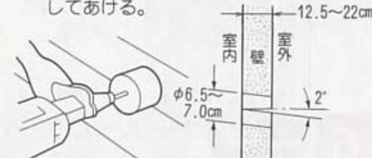
梱包材として使用していた上シート(型紙)をあてて、穴あけ位置を決めてください。
なお、30ページ「据付け場所の選定」項で示す周囲の寸法は必ず守ってください。



2 壁穴をあける (約2°傾斜させてあける)

センタードリルで中心に穴をあけた後、φ6.5～7.0cmホールソーカッターで壁に穴をあける。(1箇所)

- 壁穴は2度傾斜(外に向って下り勾配)してあける。



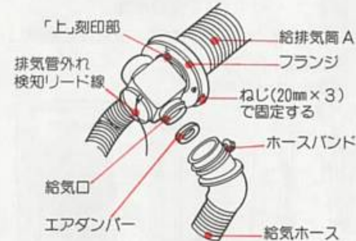
3 給気ホースを接続する

(据付け条件(標準据付けまたは延長据付け)および据付け地区の電源周波数に関係なくエアダンパーの取付けが必要です。)

❶本体背面に給排気筒と給気ホースが固定してあります。
固定ひもを外して給排気筒を図のように倒します。



❷給排気筒Aの給気口に附属のエアダンパーをはめ込み、給気ホースを接続し、ホースバンドでしっかり締め付けます。



❸給排気筒Aのフランジを、「上」の文字部が上になるようにします。

- 給排気筒Aのフランジは回転するようになっていますので、筒の部分をしっかり持ってフランジを回転させてください。
- 給排気筒Aに接続されているリード線は、必ず接続してください。(外れていると運転しません)

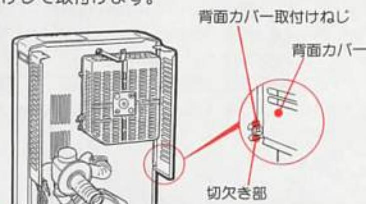
4 本体固定金具を本体に取付ける

本体背面にある切起こし部に本体固定金具を差し込み、附属のねじ(長さ8mm)で固定する。



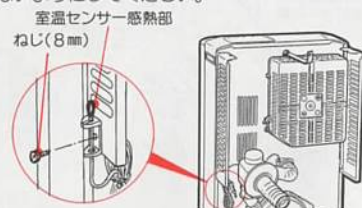
5 背面カバー横を取付ける

本体背面の背面カバー取付けねじ(左右各2本)をゆるめ、背面カバー横の切欠き部を差し込んで再締付けして取付けます。



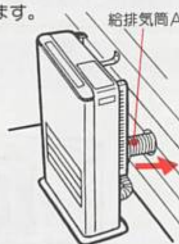
6 室温センサー(ルームサーモ)を取付ける

❶背面にコードバンドで束ねてある室温センサーリード線を約200mm引き伸ばします。
❷室温センサーを背面カバー横(左)の下部端面に附属のねじ(8mm)で取り付けます。
❸室温センサーリード線を下側に引き、余ったリード線をコードバンドで束ねます。
●室温センサーリード線は絶対に排気管に接触しないようにしてください。



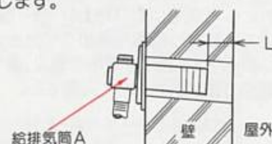
7 給排気筒Aを壁穴に差し込む

❶置台と本体を持ち上げるように移動させ、壁穴に給排気筒Aを差し込みます。
❷給排気筒Aのフランジ部が壁面にピッタリ付くまで本体を移動させてください。

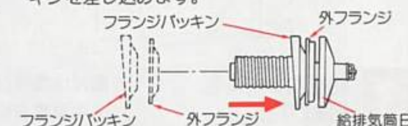


8 給排気筒Bを取付ける

❶屋外側から給排気筒Aの外壁面からの引込み寸法(L)を測り、9.5～0cmの範囲にあることを確認します。



❷給排気筒Bの元まで外フランジ・フランジパッキンを差し込みます。



❸フランジパッキンの内側にコーキング剤を塗ります。



❹フランジパッキンの凸部(「上」文字部)を上にして押さえ、給排気筒Bを給排気筒Aにはめ合わせてねじ込み、外壁にしっかりと固定します。(先端部を持ってねじ込むと、容易にねじ込めます。)



ラス網(モルタル壁の下地用金網)張りや、外面鉄板仕上げの壁に取り付ける場合は、附属の絶縁シールを巻き、壁内外の金属と給排気筒間の絶縁を施してください。

9 本体固定金具を壁面等に固定する

(本体固定金具が壁に固定できない場所ではこのストーブは使用を禁じられています。)

本体固定金具の他端をねじで壁面等に固定します。

●本体固定金具はストーブと壁面との寸法によって調整できます。

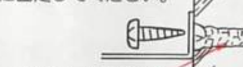


●壁への固定は以下にしたがってください。

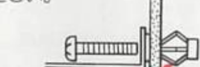
(イ)木または厚い合板の壁への固定
附属のねじ(長さ20mm)で直接壁に固定してください。



(ロ)モルタル・コンクリート壁への固定
市販のコンクリート用プラグを使用して壁に固定してください。



(ハ)石膏ボード、薄い合板等の中空壁への固定
市販の中空壁用プラグを使用して壁に固定してください。

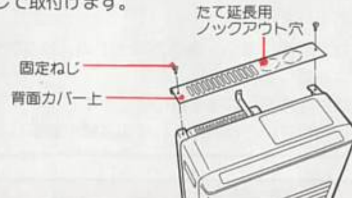


(ニ)土壁・しっくい壁等への固定
壁にそえ木をし、附属のねじ(長さ20mm)でそえ木に固定してください。



10 背面カバー上を取付ける

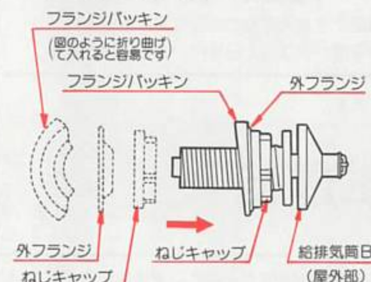
たて延長用ノックアウト穴が前から見て右側にくるような向きで背面カバー上をのせ、固定ねじで取付けます。



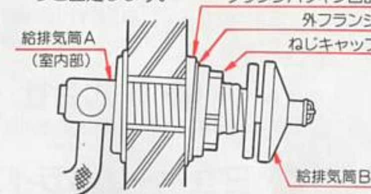
薄壁への取付け方法

壁厚が1.5～12.5cmの薄壁へ取付けるときは、附属の薄壁用ねじキャップを使用して、つぎのように給排気筒を取付けてください。

❶給排気筒Bの元までねじキャップをねじ込み、外フランジ・フランジパッキンを差し込んだ後、フランジパッキンの内側にコーキング剤を塗ります。



❷壁厚を測った後、給排気筒Bを給排気筒Aに最後までねじ込み、フランジパッキンの凸部(「上」文字部)を上にして押さえ、ねじキャップをねじ込んで締め、外壁にしっかりと固定します。



給排気筒の取付け(つづき)

延長据付けについて

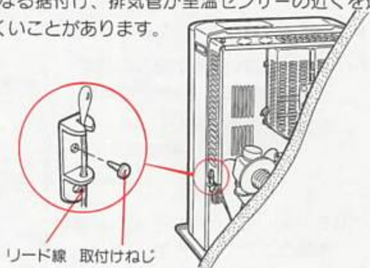
給排気筒の取付け方法は、標準据付けの他に応用(延長)据付けもできます。
お部屋の状態により延長据付けを行なう場合は、販売店または設置業者とよくご相談の上、ご依頼ください。なお、延長据付けを行なう場合の延長限界は、長さ3mまで、曲がりは3ヶ所(本体出口の曲りを含む)以内です。

- たて延長の場合、背面カバー上のノックアウト穴をハンマー等でたたいてあけ、排気管、給気パイプを通してください。
- 抜け止め金具は必ず取付けてください。
  取付けないと排気管外れ検知装置が動作し、運転しなくなることがあります。

室温センサー(ルームサーモ)の移動のしかた

本体側面に壁がくるコーナ据付け、背面がガラス窓となる据付け、排気管が室温センサーの近くを通る据付けなどの場合は、室温がお好みの温度になりにくいことがあります。
このようなときは次の要領で室温センサーを外して他の場所へ移動してみてください。

❶室温センサーの取付けねじを外して、室温センサーを外す。
❷まとめてあるリード線を伸ばす。
(リード線は約1m伸びます。)
❸場所を変えてみて適当な場所を選ぶ。
❹位置が決まったら取付けねじで固定する。



試運転

試運転は使用者と一緒に必ず行なってください。
取扱説明書の9～11ページを参照して運転準備を行い、12～16ページを参照して運転(点火)・室温調節・タイマー運転・消火などの試運転を行なってください。

株式会社 日立空調システム
〒101−0041　東京都千代田区神田須田町 1−23−2　電話 (03)3255−7201番
(大木須田町ビル)

株式会社 日立ホームテック
〒105−8410　東京都港区西新橋 2丁目15番12号　電話 (03)3502−2111番

日立ホーム&ライフソリューション株式会社
〒105−8410　東京都港区西新橋 2丁目15番12号　電話 (03)3502−2111番

NH211040−05 2003−06(DC·M)1